

「第二回 常盤橋のあり方検討会」 議事要旨

- 1 開催日時：令和7年9月5日（金）14：00～16：00
- 2 開催場所：北九州市役所 本庁舎15階 15C会議室
- 3 出席者：植田 詩生、◎内田 晃、海老原 佑太郎、岡本 勝、柴山 品子、
辻 利之、永尾 正剛、松本 裕昭、綿瀬 鈴乃、渡辺 浩
◎座長 ※五十音順、敬称略
- 4 事務局：都市整備局道路部 長寿命化対策課
(オブザーバー)都市ブランド創造局観光課、都市戦略局都市再生企画課、
小倉北区役所総務企画課
- 5 会議種別：市政運営上の会合
- 6 議事次第：1 都市整備局 道路部長 挨拶
2 議事
(1) 安全対策工事に関する報告について（事務局報告）
(2) 架け替えを軸として今後のあり方に関する意見聴取
1) 「しっかり活用するための工夫」や
「皆に愛され維持管理する工夫」等について

7 議事要旨

【構成員】

資料2の2ページを用いて、第一回あり方検討会での意見の再確認を行った。

(1) 安全対策工事に関する報告について（事務局報告）

【事務局】

資料2の3ページについて説明。

【構成員】

この年度内に撤去ということですか。

【事務局】

年度内の撤去になります。ただし、天候の条件等により遅れることもあります。

(2) 架け替えを軸として今後のあり方に関する意見聴取

【構成員】

架け替えを軸とした今後のあり方に関する意見交換ということで、常盤橋の今後のあり方について、様々な観点から総合的な意見を主にソフト面から伺っていきたい。

意見はハード面とソフト面に分けて意見を伺っていきたい。ハード面に対する資料の説明を事務局に願います。

【事務局】

資料2の4ページから10ページについて、架け替えを軸としたハード面の検討、実現可能性やコストの検討を進めていく上で必要となる橋の姿、形、使用する材料などについて、事務局から説明。

【構成員】

第一回検討会でも説明しましたが、この常盤橋は、歴史的に非常に貴重な橋であり、小倉城下町というだけではなく、九州の起点になる、重要な役目をおびていたため、北九州及び九州を語る時に欠かせない貴重な橋です。昔の形では残っていませんが、この位置に復旧されている。これは大事にしてほしいことです。

実際に当時の絵師が描き残した絵図があり、これでは西側には門が作られている。豊後橋の西側の門と、この常盤橋の西側の西勢溜の門を閉めることによって、西側にはお城がありますので、紫川を堀として防御する構造として作られていたと理解できます。

また、殿様が参勤交代で帰ってきた時には、最下流東側に船を止めて、東側の三ツ門の真ん中から上がる。東勢溜にわざわざ上陸して、常盤橋から、御客屋の前、職人口門、虎ノ門を通して、お城の中に入っていくという形になっている。

こういう事を含めて、常盤橋だけではなく、小倉城、小倉の町というのが、どのように作られたかということを意識しながら、活用方法を探っていけば良いと思っている。

もう一点は、昔の形にどこまで出来るのかということです。もし、強度的に可能であれば、絵図の様な橋脚三本で支える形がベターだと思います。また、残っている石材による橋脚は、かなり強度があるので、昔の形を伺えるような橋が可能であれば考えて頂きたい。

繰り返しますが、ただ架け替えだけじゃもったいない。勿論、すべて木造というのは強度的に難しいと思うし、コストの話もありますので。しかし、木造風の橋、雰囲気、これは大事だと思いますので、それは考えていただきたいと思います。

【構成員】

門が重要であるというご意見でした。難しいかもしれませんが、現段階では、橋脚はそのまま使いたいシナリオが中心なので、絵図のような形で架け替えられるかどうかは、予算面も含めて検討しないといけない。また、一番大事なものは強度であり、木造でなく、鉄骨やコンクリートとしても、絵図を忠実に再現することは検討しなければいけないと思います。

【構成員】

私は橋自体の話をしたしたいと思います。まず橋の長さはこのままだと思う。橋脚の数ですが、これを増やすと橋を架けるのは楽になりますが、橋脚は作るのにお金が必要です。橋脚を増やすと余分にお金が必要ですし、工期を短くするという意味でも、橋脚はそのまま使える方がよいと思います。

橋の幅ですが、例えば幅6メートルが4メートルになると、概ね荷重が3分の2になります。橋脚が使えるか否かを調査する様ですが、荷重が軽くなれば、橋脚が使える可能性は高くなるので、幅員を妥当なレベルまで狭くすることは、考える価値があると思っています。

木装橋についてですが、桁を何で作るかというのが一番重要だと思います。今、橋で一番多いのはコンクリートですが、コンクリートは重いので、おそらく橋脚から全てやり直さなければならず、費用が相当高くなると思います。

木造で作る場合、今の常盤橋と同じ強さの木材はほぼ入手できないので難しく、鉄骨桁で渡すというのが一番現実的だと思います。鉄骨は比重が約8、常盤橋に使っている木材は比重が約1ですが、材料の使用量は鉄骨が少なくなるので、トータルの重量では鉄骨が軽くなると思います。

そう考えてみると、幅員を狭くすることによって、橋の重さを軽くすることができるので、鉄骨で造るというのは意味がある。

また、鉄骨はサビ止めをすると長持ちします。メンテナンスは必要ですが、中身が鉄骨の桁という、いわゆる木装橋というのは十分あり得ると思います。

廃木材を使用した合成木材を門の材料として使用することは、木を循環的に使うことや地産地消のひとつになると思うので、今後、検討してもよいと思う。

【構成員】

工費や工期の面から橋脚はそのまま使う方がよいということ、桁は鉄骨が重量の面から現実的ではないかというご意見でした。また、木装橋の場合、北九州市で発生した廃木材を利用した材料を使うことは、まさに地産地消であるというご意見もありました。

【構成員】

今の常盤橋が作られてから、毎月1回の楽市、年間2回の観月会と起点ちゃ室町という形で使っております。橋の幅4mでは祇園の山車がすれ違うことは難しいかもしれませんが、一方通行にすればなんとかかなると思っているので、祇園の山車が通るような形にして、なるべく早く橋を通れるようにしてほしいと思います。

【構成員】

特に小倉祇園の山車が安全に通れる幅を確保してほしいという意見でした。

【構成員】

とにかく早く、来年度には工事ができるように、来年度にはもうできるような形でお願いしたい。材料はすべて木造がいいのか、鉄や色んな物を混ぜあわせたものなのか、そういう材料については、コストを含めてみなさんで考えていただきたいと思います。

そこに物があったら、それには物語があるので、市民の方々や訪れる方々に、その物語を伝えたいし、絵図にある物とかも作ってほしいと思います。

【構成員】

30年前にそのボンゴシ材を厳選して使っていたのが30年後に壊れました。話にあった木装橋というのを見に行きたいが、木装橋は永遠に保てるのかどうかということに関心あります。

素材の選定やデザインをするときには、やはり将来を担う若者などに負荷のかからないような橋であるべきだと思います。

7世代の方々にもアイデアを頂きますが、これからは若者が利用していくので、若者には負荷のかからないような再建の計画やメンテナンス費用の計画を立てていただきたいと思います。

【構成員】

今回のボンゴシの橋は30年ぐらいで問題が見つかったということですが、一般的な橋、車が通る橋は、どれぐらいの耐用年数が見込まれるのか、後ほど事務局にお答えいただきたい。

【構成員】

私も橋を架け替えられるなら、門を作ってもらいたいということを前からお願いしていました。どうしても門を作っていただきたいと思います。

私たちは雑巾できれいに橋を拭く行事もしましたし、伊勢神宮も何十年に1回建て替えるのですから、それも一つの行事ではないか、後々に残す一つの行事ではないかと思います。

そして、後々の子どもたちに小倉の良いところ、お城もあるし、立派な木の橋もあるということを、今後も伝えていくのが私たちの役目だと思っています。

【構成員】

常盤橋は、地元の方々にとっては生活道路という意味もあると思いますが、文化的・歴史的な側面から観光資源として存在した方が良く考えています。

観光資源という扱いになった際、極力、木に近い見た目で再現してほしい。また、全国的にも橋と一緒に門がある所は、おそらく少ないと思う。しかも、それが歴史的な資料で残っており、その門を再現したとなるとストーリー性も生まれると思う。歴史的に無かったものを作るのではなく、あったものを復元するという点では、これからの歴史を繋げていくうえで、残していった方が良く感じています。

擬宝珠など残しつつ、やはりパツと見たときに、歴史が感じられるような、風情が感じられるような橋で生まれ変われば良いと感じています。

【構成員】

やはり門のこと、これが非常に大きなポイントです。擬宝珠とかも、こういった付属品等々も、この常盤橋を印象的なものにするのではというご意見だと思います。

【構成員】

毎日のように通っていた「なかよし橋」は、遠くからは木造の橋ですが、実際に渡って触ると、本当の木ではないと小学生ながら分かっていました。そういうところは残念なので、人が触れる手すりの部分だけでも、本物の木で作ったら良いと思いました。

また、門を作ることに関しては賛成です。若い人が写真を撮影する場合、門はインスタ映えすると思うし、撮影スポットになると思います。今の常盤橋の木材を、門の一部に再利用することで、愛着が湧くなど、大切にしてもらえるのではと思います。

【構成員】

今の橋を再利用して、それを門にするっていうのは、大変素晴らしいアイデアだと思います。実現可能性があるかどうかは別として、やはり 30 年間この場所に存在していた木材であることは間違いないので、それを別の形で再利用すること、これも木の再利用という意味では、北九州市が進めている環境に優しいまちづくりのコンセプトにも合致する部分ではないかと思いますので、ぜひこちらも検討して頂きたい。

【構成員】

小倉城庭園の人からは、常盤橋から小倉城の虎ノ門口を通るのが、一番正しい小倉城への参り方だと教えてもらいました。このことは、一部の観光客は知っていますが、知らない観光客も多いようなので、常盤橋のどこかに QR コードなどで、歴史を見られるようにしたり、常盤橋と虎ノ門口だけでなく、室町や小倉城下町全体を結ぶようなルートマップやスタンプラリーなど、今後、長期的に観光の拠点の一部として認識されていく取り組みが必要ではないかと思っています。

そして、常盤橋を再建する際にも、協力して頂いた方々の名前を橋に刻んだりして、皆さんが橋を作っていき、街全体が常盤橋を作り上げていくということが大事なのではと思います。

【構成員】

常盤橋から虎ノ門を通ってお城に入っていくというルート、これも非常に重要で、実際にそういうルートをたどって観光してもらうというのは、当時に想いをはせながら、小倉城にアプローチするという非常に面白いアイデアだと思います。そのためには常盤橋は絶対に必要であるということになるかと思います。そして、門があった方が小倉城へのアプローチとしても、その物語がより昔に近づくというような考え方があるのではないかと思います。

【構成員】

これまでの構成員からの質問に対する事務局の回答をお願いします。

【事務局】

橋の耐用年数ですが、現在の橋の設計では、適切にメンテナンスを行いながら 100 年間持たせるという設計思想になっています。メンテナンスの容易な構造が大事ということです。

木装橋の場合、手すりを交換しやすい木材にして、そのメンテナンスをみなさんと行事化するなどで、みなさんの橋を大切にするという想いに寄与するのではと思います。

主な構造体については長く持たせるような、しっかりとしたものを作って、あとはメンテナンスが容易な構造にするということが大事だと思います。

【構成員】

木装橋の実物を見てみたいというご意見もありました。イメージをつかむためには、写真で見るのと、実際に見るのでは違うと思います。八幡東区の大蔵は近いので、幅や感覚的なものも体感できると思いますので、もし可能であれば、そういった機会も設けていただければと思います。

【構成員】

ハード面に関する部分を簡単にまとめます。今後、架け替える場合は、木装橋が現実的であるということです。橋脚を再利用するには、重量の限界があるので、今の橋よりも少し幅を狭くして、重量を減らすということが現実的という意見がありました。

それから、やはり昔の絵図にある門です。これが再現できれば、常盤橋の意味付けにも非常にプラスになる。また、常盤橋からこの門をくぐり、虎ノ門から小倉城に入るというルートも限りなく再現できるということもあり、みなさまからのご意見としては、様々な付属品よりは門がプライオリティ的には第一であるというご意見だと思います。

【構成員】

続きまして、ソフト面について、ご意見を伺っていきたいと思います。

第一回の検討会では、常盤橋をしっかりと活用して、みんなに愛されて維持管理してもらえるような取り組みが必要であるというような意見でした。皆さん方の常盤橋に対する思いが非常に強いものであるということは、今年 1 月の懇話会や 3 月の第一回の検討会で意見を伺って、非常に大事にされてきたことを承知しております。

維持管理ですが、本来は管理者である行政、市が行うのが筋ですが、今はそういう時代でもなく、道路については道路サポーター制度というのもございます。公園も、地域の皆さんで管理するといったようなことが日常的に行われております。

地元の方々などが、イベントの一環として、この橋についても何かできることがないか、そういったアイデアなど、自由な意見を伺ってまいりたいと思います。

【事務局】

資料 2 の 11 ページから 16 ページを用いて、常盤橋をしっかりと活用し、皆様に愛され、維持管理されるためのアイデアを考えるための意見の素材として事務局から説明。

【構成員】

可能かどうかというお願いですが 2 点ある。一つは常盤橋は、九州の主要街道（長崎街道）の起点となる規模の橋であるため、江戸時代の書物にある幅 8m はダメなのかということなので、検討していただきたいと思います。

もう一つは、出島の橋もそうですが、皆さんで掃除することは良いことだと思う。他の例では、いのちの旅博物館の年末イベントの恐竜のすず払いがある。直に恐竜に触れられ、そうすると自分たちがきれいにした恐竜の骨格に親しみが湧いてくる。だから、架け替えだけでなく、地元の方々たち、小倉北区とは限定せず、幅広く、旧筑前や福岡藩側の人たちにも幅広く呼びかけて、イベントをすることは非常に良いことだと思います。

やはり市民の方々が、常盤橋に親しみを持てるような仕掛けを考えていただきたいと思う。

【構成員】

橋の幅については、ハード面でまとめた方が良いと思います。江戸時代は幅 8m あったということなので、それがなぜ 30 年前に、どういう議論で幅 6m になったのかというところも改めて確認してほしいと思います。それを踏まえて、なぜ今回は幅 4m 程度なのか、シナリオとしては終点側の出島が 4.5m なので、こちらも幅 4.5m というのは、ある意味あり得ると思うし、もちろん荷重の関係や物理的な面での制約というのも当然あると思いますので、ここが要検討材料だと思います。

【構成員】

今の常盤橋の幅が 6m になったのは、室町側の道路幅が 6m であるため、橋の幅も 6m を維持したと記憶している。江戸時代は、現代の橋のように柱をボルトで留める手段がなかったので、床板の上に柱が置いてある感じで、手摺の外側にはかなりスペースがあり、全幅員で 8m だったとしても、実際に人が歩ける幅は 5、6m くらいしかなかったと思います。今の常盤橋の幅は、それとは関係なく決められているので、橋の幅をどうするかというのは別の問題だと思います。

【構成員】

長崎の出島の橋拭きですが、私も時々行っており、直近では今年の 2 月に行きました。ここがすごいと思うのは、行政が一切関与しておらず、ボランティア活動として、市民を巻き込んでやっていることです。とにかく月に 2 回、第 2・第 4 月曜日の 6 時半から、雨が降ろうが、誰も来なくても、言い出した人だけでやる。そのような感じでやっていったら、なんとなく 10 人、20 人集まるようになったようです。

行政は、近くの水道を貸す程度の援助をしている。資金的にも、倉庫も貸してる訳でもない。ある意味、この様な活動が本物だと思います。橋拭きは、やっているとなんか楽しい、楽しいと思っている人たちと一緒にやるとさらに楽しいのです。このようなことを地域のまちづくりの延長線上でやろうというような話ができれば、すごく良い事だと思います。

木の橋は手がかかるから可愛いと言いましたが、例えば、床板は取り外すだけなので、たまに床板を自分で交換するとか、床板に自分の名前を書くなども考えられる。これは行政が関わらないと無理とかと思いますが、様々な展開はあり得ると思います。

【構成員】

出島の活動は、いわゆる形式ばらずに、緩やかに行われており、だからこそ続いていると思います。しかも行政が関わってないから長続きもするという、非常に参考になるポイントだと思います。人が多い、人が自然に集まってくる日本橋や大阪の例とは違い、長崎の例は非常に参考になると思います。

床板の話もすごく参考になり、実現できればすごく良いと思います。まさに市民の愛着が湧くような、良い仕掛けだと感じました。

【構成員】

今の常盤橋をそのまま残してとは思ってないし、物を残すことも良いけど、物語がついてくることが大事なんです。常盤橋は象が渡った。青年会議所が本物の象を呼んできて、橋を渡らせ終わったら、みんなすぐ帰ってしまったので、集まっていたのは青年会議所とマスコミがほとんどだったと思う。なぜ地元の幼稚園とか小学生などを呼んで、その象が渡るのを見せなかったのかと思った。自分達だけでやるのではなく、やはり子供たちにも伝えるということが必要だと思う。象の話は、紙芝居で頑張っている方々もおられるので、そのような物語を伝え残していくことをやりたいと思う。

【構成員】

私たち年長組から常盤橋を残してということに対して、若者が別の視点からどのような意見があるのかと思っていたが、今日の若者の素晴らしい発言に私は感動しています。清掃活動の件、一部廃材を利用する件、小倉城、虎ノ門との観光コースを設定したらどうかなど、素晴らしい意見をいただいて感動しています。

このソフト面を構築するにあたって、確かに歴史や観光、学び、ウォーカブルなどのキーワードもありますが、出島の件含めて、市民運動、橋洗いのような地域の活動、シビックプライド、環境の視点から廃材を利用するなど、SDGs の視点を学びの場の注釈等に加えてもらえれば良いと思います。

常盤橋を再興するにあたっては、今は橋の上を歩くことが議論になってますが、川面から見た常盤橋を議論するのも面白いと思っています。

今年の小倉城竹灯りでは、虎ノ門を小倉城の入門口というようなことで明確化したいと思いますが、その時に常盤橋からリバーウォークを通して、虎ノ門に向かうというところまで竹灯籠を飾って、連続性を持たせたらいいなと思っています。

伊能忠敬の献花の集いは24年ぐらい続けています。これまでは、伊能忠敬の装束を着た人たちが常盤橋から出発していたが、今年は室町大橋からの出発に変更せざるを得ない。長年、このようなまちづくりをしている方々が頑張ってるので、引き続き常盤橋を大事にしましょう。

【構成員】

小学生に歴史をこうだと書いてもわからないので、はくぞう座というものを作り、白象が長崎から江戸まで行ったという紙芝居をずっとやっており、常盤橋でもイベントをさせてもらっています。このように私たちの会では、子どもたちにいろんなものを残していきたい。常盤橋も残していきたい。小倉城下町も残していきたい。せっかく小倉にはお城があるので、そういうものを大切にして、様々な行事をしていきたいと思っていますし、橋ができれば小倉城へのルートで観光案内ボランティアをしたいと思います。

【構成員】

子どもたちにとって歴史というのは難しい存在というか、分かりづらいものなので、一番記憶に残り、印象に残るものは、白象の紙芝居のような、わかりやすいものだろうと感じました。ただ、紙芝居などの活動はあるけど、橋の周りにはそれを感じられる物がなく、周りに白象が感じられるオブジェなどあれば、子どもたちが興味を持つきっかけになるのではと感じています。

昨年、北九州でバレーボールの国際大会があった時に、各国の選手たちが、とにかく小倉城を目指して、商店街やいろんな橋を渡り、SNSで街の様子をアップしていた。この時に、常盤

橋から虎ノ門を通して渡るルート、お殿様が通るルートというのが分かるような物をホテルに掲示しておけば、歴史が伝わりやすかったのでは感じました。

ゼンリンミュージアムのムービーは、常盤橋から始まるようになっていて、やはりこの町では常盤橋というのが大変重要なものだと感じる。これは地元の私にとっても、すごく学びになったし、初めて来られた人もそのように感じるだろうと思いました。さらに伊能忠敬の大きい地図などもあり、これらとの連動性など、常盤橋周辺の歴史などを伝えられるような、何か一緒にできるようなものになれば良いと感じました。

【構成員】

私は、常盤橋の場にとどまる工夫をしたら良いのではないかと思います。おそらく、観光客の方が常盤橋を見たら、木の橋だから珍しいと思い、写真は撮るがそれで終わってしまうと思います。

例えば、橋の東側に、ベンチとテーブルを置いて休憩するスペースを作ってみる。休憩することが初めの目的で、休憩している時に木の橋が見えて、この橋について興味を持ち調べてみるなどが考えられます。また、先ほど紙芝居の話がありましたが、観光客が休憩している場所で見れて、紙芝居を子どもたち向けだけではなく、観光客向けにも行うなどもある。門ができたら門を見て、そのまま小倉城、リバーウォークの間を通して小倉城というルートも完成するのではないかなと思ったので、留まるための工夫をすると良いと思います。

【構成員】

滞留という今までにはないアクティビティを活かしてはどうかというようなご意見だったかと思います。

【構成員】

常盤橋と虎ノ門というルートの確立について、橋のQRコードを設置して、それを読み込むと情報が見れるということが考えられます。若者の意見かもしれませんが、橋をSNS映えさせたいと思った時には、橋全体を撮るのではなく、橋に映り込んだ私というのをインスタなどにアップすることが多い。橋付近の桜だけでなく、他の植物やライトアップ、歴史の風合いを出しながらも若者受けしそうなフォトスポットの仕掛けを作っていくと、小倉城を散策するときに、常盤橋にも立ち寄ってもらえると思いました。

【構成員】

聞き足りない話だとか、何かありましたらお受けしたいと思います。

【構成員】

小倉城に来られる方は、虎ノ門をほとんど通っていない。虎ノ門が小倉城に入る一番の重要な玄関口なのに、イベント業者の方たちの車を置いていることがある。

今、名古屋城を作り替えるにあたって、様々な議論がある。本来、城というのは、守りのためのものなので、簡単に入ってこられては困るものです。本来の城というものを考えるのであれば、先ほどの散策ルートなども、虎ノ門を通してほしいと思います。散策ルートの紹介という資料がありますが、この虎ノ門から入ってくるというルートが全く無視されているので、小倉城を考えるのであれば、小倉城が本来お城であった時の風景というものをもう一度、考え直す必要があると思います。

同じように、小倉城下町がまさに江戸時代、城下町であった時の風景というものをどのように考えて、この常盤橋を再考するのか、私はそこが大事ではないかと思っています。何が大事なのかということを、まず基本を据えた上で、どのように対応するのか考えていただきたい。

【構成員】

東西の参勤交代の往還道にある京町銀天街は、ルート作りの役割を果たそうと思い、例えばアーケードの柱、柱の根元をお城のイメージにするなどの工夫をしようと思っています。

小倉駅から魚町もいいですが、京町を通過して常盤橋へ向かい、そして川沿いを通して、虎ノ門の正面の鏡石という大きな石をぜひ見ていただきたい。小倉城の歴史を認識すると同時に、まちづくりでは、私たちも一緒に頑張っていきます。

【構成員】

常盤橋には25年ほど関わってきましたが、この場に呼んでもらってよかった。今まではただの木橋だったと思いますが、これだけこだわりを持った方がいる橋ということで、常盤橋の見方が変わった感じがします。

ツーリストである私がこの街に来て、常盤橋がどのように見えるかを考えた場合、そのこだわりがツーリストには見えていないかもしれない。それをどう見せるかというのが、これからの検討項目の一つだと思います。

今まで見せようとするには、お金がかかることが多かった。今日のお話にあったQRコードを埋め込むと見たい人は見るし、それを見ると江戸時代のジオラマが見える、それだけで旅行客は嬉しいのです。これであればデータは作成するが、物を作らなくてもよく、新しい見せ方になると思いました。

ハードの話ですが、この橋はよく持ったと思います。ただ、出てきた頃には50年ノーメンテナンスと言っていたんです。ボンゴシも天然の木なので、腐らないはずがないのです。要は速度が違う、腐りやすい、腐りにくい木と微生物が繁殖しやすい環境かどうかという差だと思います。そういう意味でみるとボンゴシも当然腐りますし、それが何年なのかというだけの話だと思います。

先ほどエコウッドが長持ちするのかと聞かれましたが、あれはプラスチックだと思ってください。プラスチックを外に置いておけば、紫外線で組織が破壊されてしまいます。それぞれ弱点はあるという事です。

再利用のことですが、先ほどの伊勢神宮の話、あれは20年経ったら必ず壊すことになっているので、何の防腐処理もしていないです。伊勢神宮であること自体が価値を持ち、小さく切り刻むとすべてお守りになる。全国の神社に配られる。これはちょっと例外です。

岩国の錦帯橋ですが、錦帯橋の木材だったということは結構な価値があるのですが、実際20年前に架け替えた橋を刻んで市民に配ろうとしたら、防腐処理したものは問題ではないかとなり、結局、市が作り直したベンチなどに使われているようです。

常盤橋の床版等には防腐材が入っていますが、無処理のボンゴシもあるので、ベンチに加工するのは良いと思いますし、生まれ変わりましたというような見せ方ができると思います。

コンクリートの橋を木の橋だと言ってもらえる橋があるのはなぜだと思ったのですが、要は渡っている人が見えている部分が木であれば、それって木橋ということなんです。そうしてみると、木の橋にこだわるのであれば、床と手すりガリアルな木であれば、十分に木橋だと思います。

桁を隠す材料は、安全に関わらないと思うので、きちんと手当てしてくれない所が結構あるみたいです。きちんと手当てをしてもらえるのであれば、十分、一般の方は木の橋だと感じると思います。

【構成員】

ハードとソフトに分けて意見を伺いました。ハードとソフトの両方に関わってくる部分もあり、今後の作り方、使い方、メンテナンスの仕方などを幅広く議論できたと思います。

常盤橋の価値について、改めて皆さんと共有できたと思いますし、様々な資料に絵図として残っている常盤橋ですので、これを非常に重要なリソースとして捉え、歴史的にも今後の観光の、特にインバウンドの方々にこの価値を見ていただくという、そういう視点でも非常に重要であるということを、改めて認識できたと思います。

また、常盤橋は、ピンポイントの橋ではなく、ここを通ってきたお殿様、武士の方々、商人の方々、いろんな方々が通ってきた歴史を踏まえて、小倉城などを含めて、面的に位置づけないといけないということ。特に今日は、常盤橋を渡って虎ノ門からお城に入っていくという、非常に重要なルートとしての価値といいますか、ストーリーを改めて感じたところです。

このような歴史的な意味合いなども踏まえて、常盤橋の作り方やその後の活用の仕方を考えていかなければならないと思いました。

また、もうすでに行われている楽市、観月会、竹灯りなどや小倉城エリアで行われているイベントに常盤橋をうまく掛け合わせて、様々な活用方法が、これからも展開できるのではないかなと思います。

このようなポテンシャルが非常に高い橋だということが、改めてわかったところですし、他都市の事例なども踏まえると、橋ができた後のみんなに愛されるような使い方、メンテナンスの仕方、そういったことをみんなで考えていく必要があると改めて分かりました。

常盤橋というのは、小倉地区の一つの橋ではありますが、やはり長崎街道の起点であるという歴史性も踏まえると、小倉にとどまらず、北九州の、或いは線として長崎まで繋がっている長崎街道の一つの構成資産として、幅広く魅力発信をしていく必要があるのではと思いました。

この常盤橋、今年度中に今の木の部分の撤去工事に取りかかって、今後架け替えていくという方向性は出ていますが、市民の税金を使う、非常に公共性の高い事業でもありますので、やはり広く市民の方からも共感を得ないといけないところです。小倉地区、室町地区だけではなく、市全体、市民の方々の共感も得ながら、事業を進めなければならないということを改めて感じました。

ハードの面については、全て木製で作ることは現実的ではないということ改めて分かったかと思います。桁をうまく隠して、床材や手すりの部分など歩いて見える部分、或いは近くを通って見える部分、こういうところに木の化粧があれば、皆さんの印象は限りなく木橋に近いという認識になるということです。ハードについては予算面のこともありますので、幅をどうするかという議論も、今後きちんと検討する必要があると思います。

ボンゴシの常盤橋が30年間生きてきたということも、重要な歴史だと思いますので、再利用できる部分、ここにボンゴシの橋があったんだということが、後世に伝わるように、滞留するための工夫として、意見にあったベンチでの再利用などができたらいいと思います。

門については可能かどうか、今後の検討次第ですが、今のボンゴシをうまく活用するなど、30年間生きてきたボンゴシの橋が後世に伝わるような仕掛けがあって良いと感じました。

今年度に撤去して、いよいよ次をどうするかというステップに入っていくにあたっては、様々な検討や、法的な規制についても、クリアにしないといけない部分もあるかと思います。そちらについては、引き続き事務局の方で検討してもらい、また、みなさま方に意見を伺うという形にさせていただければと思います。進行を事務局の方にお返しします。

【事務局】

本日は貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。本日いただいたご意見につきましては、今後の常盤橋のあり方の非常に参考となるものです。これから、本日のご意見を参考に、実現性、継続性や法的な制約などを踏まえながら、事務局の方でしっかりと検討していきたいと思っております。以上をもちまして、第二回常盤橋のあり方検討会を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。

8 問い合わせ先

都市整備局 道路部 長寿命化対策課
電話番号 093-582-2292